

「町民」「地域」が輝く 元気を町づくり

小野町長 大和田 昭



謹んで新年のお慶びを申し上げます。

町民の皆さまには、ご家族おそろいでよき新春を迎えられたことと存じます。

昨年を振り返りますと、熊本県を中心とした強い地震による災害や台風、梅雨前線などの影響による大雨の被害など自然災害が発生しており、多くの方が犠牲となりました。亡くなられた方々のご冥福を心からお祈りするものであります。

我が町は大きな被害は無く、地震をはじめ災害に強い地域であると感じておりますが、災害は、いつどこで発生するか、その予測は全く困難であり、常に起こりうることを想定し、日頃から災害の未然防止や災害

発生時の対応に万全を期さなければならぬものと改めて考えさせられたところであります。町は昨年災害時の応援体制の強化を目指して、埼玉県戸田市と災害時の相互応援協定を締結しました。さらに、大震災の経験を活かしながら新しい一歩として、双葉郡広野町、川内村それぞれと交流連携協定を締結しました。今後、協定に基づき信頼関係の継続と交流を深め、両地方の発展に努力を

推進するため、今年度から「子育て支援課」を新設し取り組みを進めております。今後とも小野町で子どもを産み、育てたいと言っていただけよう努力してまいります。しごとづくりに関しましては、創業者を希望する方に対し地元銀行と協力し、セミナーを開催したほか、農業・工業・商業の支援施策を強化充実させております。

さて、地方は今「地方創生」という地域自らが創造し、地域の特性を活かした地域づくりが求められております。これらを踏まえ、町は少子高齢化が進む中、人口減少に歯止めをかけるべく、まちづくりのマスタープランとなります「第四次小野町振興計画」や「小野町まち・ひと・しごと創生総合戦略」などの中長期計画に基づき施策の着実な実施を進めて

は、新たに定住コーディネート委員を委嘱したほか、地域おこし協力隊を増員、空き家台帳を整備し、暮らしのガイドブックを作成するなど移住・定住施策を強化しております。安全・安心なまちづくりに関しましては、町内にヘリポートを整備したほか、高齢者などの交通手段の確保として、新たな仕組みの試行に取り組んでおります。また県の事業であります右支夏井川河川改修事業

その中で、町の喫緊の課題として捉えておりますのは、人口減少対策であり、特に子どもを生み育てやすい環境の向上であります。

やふくしま復興再生道路吉間田滝根線の整備促進についても県と一体となり取り組みを進めております。以上の取り組みのほかにも、町の特産品づくりについて、小野高校と連携により推進しており、その一環として名誉町民である小泉武夫先生に橋渡しをいただき、沖縄県石垣市

町の子どもの生み育てやすい環境づくりに関しては、各種子育て支援施策を

の八重山農林高校と小野高校との友好協定を締結しました。今後の両校の取り組みに大変期待しているところであります。

私は、町民の方々が求めている課題の把握を図るため対話会や夢トークと題して若者の方々と懇談を行いました。さまざまなお意見をいただき、これからの課題に対し迅速な対応に努めてまいりたいと考えております。また先人から引き継いだ豊かな自然環境や貴重な地域資源、継承された文化の融合を図りながら、引き続き、町民の皆さまが安心して日々の生活を営んで頂けるよう、災害に強く、あぶくま高原の交通の要所という特色を前面に押し出し「町民」「地域」が輝く元気な町を目指し、日々の町政執行に邁進する決意であります。

新年を迎え新たな決意をもって、一歩一歩着実に歩みを進めて参りたいと考えておりますので、今後ともご支援、ご協力をお願いします。結びに、すべての町民の皆さまのご健勝とご多幸を祈念申し上げます。年頭あいさつとさせていただきます。

